

第 43 期 2ndQ GL 会議スピーチ

2015 年 7 月 3 日

『人生に起こる出来事はすべてに意味がある』

5 月末に起こった販管システムの消滅事件 注 1 は、自社の過失でないにも係わらず、倒産するかもしれないと思わせる出来事でした。BCP の絡みで基幹システムのバックアップ体制を構築すべく、11 月稼働予定の関西事業所のシステム運用法を検討している最中でした。今回の事件はバックアップ体制が完成するわずか半年前に起こってしまったわけです。リーマンショック以来の経営危機に突然追い込まれた状態でした。前日の日曜まではビジネスの未来形のことを考えていました。週明けからは、現場が大混乱で顧客からの注文が受け付けられない状態になり、それがいつまで続くかだれも判らないのがとくに恐怖でした。リーマンショックの時は業界全体がダウンしていたので生き残れるかどうかのポイントでしたが、今回はフロウエルだけがダウンしているので運よく生き残れたとしても受注と出荷不能の期間が長引けば客離れが起こります。もっとも懸念されたのは、新型汎用メカ継手売り込み、つまり 80 s のスペックインが大詰めを迎えている時期に起こったことです。5~6 年間の全社努力が無駄になるだけでなくこの先 10 年負け組で過ごすのは、もう次の開発コストを投資できなくなることを意味します。なによりもみなさんの気持ちが腐ってしまうのを心配しました。しかしながら、今回の事件は会社のこの 10 年間の成長を本当に実感する機会になりました。各部門長を先頭にパート社員のみなさんまでが自分の事と受け止めて真摯に働いてくれました。各部がトップの指示を待たずとも自律的に動いて、尚且つ他の部署との連動が高度にとられている状態は組織の理想と言っていいです。

10 年前から開始した企業改革の骨子は、それまでのワンマン経営からチーム運営に移行することになりました。外部から招聘した優秀な人材と才能のある内部昇格者が上手くミックスして多様性を出しつつ、以前のイエスマンで指示待ち状態から各々が部内の合理と全社の最適を合わせて考え行動がとれる経営集団に変える努力をしてきました。計らずも危機的な状況に直面して改革の結果が表れたように感じます。リーマンショックの時に何度か発信したトップからの事情説明や激励文は今回 1 度も出ませんでした。がんばっている人達にがんばれと言う必要はありません。みなさんが MVP です。本当に良くやってくれました。ありがとうございます。

今回の件が未来に起こる東海大地震で予想される基幹システムの損傷に対してどう準備し、実際に起こった際どう対処すればいいのかについてかなり参考になりましたと部門長

の一人が私に話してくれました。人生に起こる出来事はすべてに意味があると何かで読んだことがあります、今回もそうだと思います。今年の年始挨拶でうかがった企業の老会長にいつ社長になられましたかと聞かれたのでリーマンショック勃発の直後ですと答えるとそれはいい経験をしましたねと言われました。リーマンショックの最中はとてもつらい時期を過ごしましたが、あの経験があったからこそ今後どんなに儲かっても財務的に締めていかなければならないと心に据えて一本芯の通った経営がこれからもできると思っています。

注1 あるシステムベンダーが、フロウエルの販売管理システムのサーバー乗せ換え作業中に、データを丸ごと消失させ、復旧作業をサルベージ企業へ外注したが失敗し、その後居直って回復責任を放棄した。フロウエル社員が個別に持っていたデータを足し合わせ、契約が切れていた当システム開発業者の力を借り、大勢の社員が深夜残業を毎日行って1週間後になんとか受注できる状態まで戻した。フロウエルはシステムベンダーを提訴し、裁判の末和解金を受領して最終的に和解した。